

巖本善治 いはもと じよんぢ 評論家。文久二年八月十五日馬國生れ、昭和十七年十月八日歿（六三—一九四二）。舊姓井上。筆名がすみ、しのぶ、しのぶ、みどり、ともぢ、よしはる、よし治、うさう生、一郎、井上二郎、井上次郎、井上損軒、南石外史、南石生、友人善治、善治、女學士、女學雜誌編者、好春子、如雲、如雲學人、如雲散士、如雲生、「小説論略」筆者、山下生、山下石翁、山下石軒、岩本南石、岩本善治、巖本南石、巖本生、巖本露草、撫象、撫象堂主人、撫象子、故の小説論略筆者、是空子、時事子、月のやしのぶ、月の産しのぶ、月の屋よのぶ、月の舎しのぶ、月の舎の主人、月の舎主人、月の舎主人しのぶ、月の舎の、次郎、玉堂、玉堂の主人、玉堂散人、玉翁、白翁、石翁、翁孫、翠、落花、落花如雲、落花散人、薰、評論子、露子、露生、露草、露草子、露草軒、露草軒潛恨、Y・I、Y・I生等。明治九年上京し、中村正直の同人社、次々津田仙の學農社に學ぶ。十六年受洗、十八年「女學雜誌」を創刊、二十年明治女學校教頭（二十五年校長）、二十一年若松賤子と結婚。後年實業方面に轉じた。

編著書 『海舟餘波』（編、明治二十二年二月—二十八年日女學雜誌社）、『先覺詞藻』（合著、進藤信義編、明治二十四年十月十一日大阪鍾美堂

本店・鍾美堂書店）、『勝安房記』、『海舟日誌』（内題「海舟日記」編、

堀梅太郎校、明治四十年七月—二十七年月刊、開國社）、『海舟産談』

（編、昭和五年七月十五日、増補・十二年九月十日、新訂・勝部直長

校注・五十八年二月十六日岩波書店「岩波文庫」）  
等。

